

JOCジュニアオリンピックカップ
第44回全日本中学生ホッケー選手権大会

【競技運営規定】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第44回全日本中学生ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 (公社)日本ホッケー協会2014年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
4. 時 計 試合時間は、ジャッジ席で管理する。
5. 競技方法 (1) 男女とも、3チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。(予選リーグにおける延長戦はなし。)
(2) 決勝トーナメント1・2回戦において規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるシュートアウト戦(以後「SO戦」とする)を行い、勝敗を決する。
(3) 決勝トーナメント準決勝より、規定の時間内に勝敗を決しないときは5分間の休憩の後、延長戦を行う。時間は各3分よりなる前後半とし、両チームは前後半の間にサイドチェンジをするが休憩はおかない。この延長戦は、いずれかのチームが得点した時をもって終了する。なお、この規定の時間内に勝敗を決しない時は「7」に定めるSO戦を行い勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法
(1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点、敗戦チームに0点をそれぞれ与える。
(2) 勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。
①リーグ戦における「得失点差」(「総得点数-総失点数」の差が多いチーム。)
②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
③上記において、なお同点の場合、「7」に定めるSO戦により順位を決定する。
なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。
7. シュートアウト戦(SO戦) ※詳細については別紙参照
(1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から3名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
(2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計6回)、得点の多いチームを勝者とする。
(3) (2)の方法によって勝敗を決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のSO戦を行う。ただし、順序は変えても良い。
8. 試合の中断と追試合
天候のやむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。
(1) 追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。
(2) 追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
9. チームベンチ
チームベンチには、エントリーされた者以外は入ることができない。
(但し、学校長、3年生等TDの許可を受けた者はこの限りではない。)
10. フィールドへの立ち入り
試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(コーチングは禁止)

11. 選手の交代

- (1) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
- (2) 一時退場(イエローカード：3分以上)させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
- (3) 選手の交代は、ジャッジ席にその意を伝えた後、ジャッジ席前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12. 平成26年度ルール確認

- (1) センターパスにより試合を開始する。
- (2) 「オウンゴール」については、採用しない。
- (3) フリーヒット(ボールをしっかり静止してからプレーを始めること)
 - ・ヒット、プッシュ、フリック、セルフに加えスクープで始めることができる。

13. 確認事項

- (1) ユニフォーム(平成26年度日本ホッケー協会ハンドブック記載事項による)は必ず2着用意し、グラウンドへ持参すること。
- (2) 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。
- (3) キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。
- (4) ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用すること。
- (5) チームベンチは、[競技日程表]の左側のチームが赤印のついたベンチとする。
- (6) 試合開始15分前にリングパス及び服装・装具の点検を実施するので、次試合のチームはチームテント横で待機すること。エントリーフォームは30分前にジャッジ席へ提出。
- (7) ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前に必ずTOに使用確認すること。
- (8) 応援者は、会場指示に従うこと。(監督は事前に保護者に説明すること)
- (9) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。(監督・応援団についても同じです。)
- (10) 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(2分以上の安静)
- (11) 棄権または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
 - ① 予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームのみで順位を決定する。
 - ② 決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- (12) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷事故報告書をTOまたはTDに提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷事故報告書を大会事務局に郵送すること。
- (13) 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。
- (14) 試合終了後、両チームの監督は、ジャッジ席で署名すること。
- (15) その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。